

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」  
についての福祉関係団体の現状と課題調査

## 団体ヒアリング調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



## 1 ヒアリング調査目的

黒部市社会福祉協議会は、福祉大会の決議事項重点 3 項目の一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」設置した。

この調査では、求められる新しい拠点のあり方の検討を進めるにあたって、現在市内を中心に活動している福祉関係団体や当事者団体、少数派（マイノリティー）の声を集め、現在の地域福祉の現状と課題を整理分析することが目的である。

## 2 調査期間（別紙実施一覧）

平成 28 年 2 月 29 日～5 月 23 日

## 3 ヒアリング調査団体（17 団体）

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するヒアリング調査  
対象：福祉関係団体、分野別、世代別、少数派の方々などを中心に調査

- 障がい：社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり
- 障がい：黒部市身体障害者協会
- 障がい：せせらぎハウス黒部
- 障がい：社会福祉法人 くろべ福祉会 保護者会
- 子育て：三日市保育所シニアサポーター
- 保 育：三日市保育所・愛児保育園 職員
- 介 護：居宅介護支援事業所 ケアマネジャー
- 介 護：介護保険サービス利用者、家族
- 壮年世代：大布施（壮年世代）60 代
- 高齢者：黒部市老人クラブ連合会
- ボランティア：黒部市地区ボランティア部会協議会
- ボランティア：市内ボランティア団体
- 地域支援活動：黒部市民生委員児童委員協議会 理事
- 行政福祉：黒部市職員
- 地区社協：地区社会福祉協議会 事務担当者
- 外国人就労：生地蒲鉾有限会社 従業員（外国人）
- 外国人支援：日本語教室 in 黒部

#### 4 ヒアリングの実施方法

人 員：聞き手1名、記録1名（最低人数）

場 所：できればホワイトボードによる可視化

時 間：40分程度

グループ：5人～6人程度のグループを作る。（多いと意見が言えない）

備 考：ファシリテートするスキルが必要。参加者へ発言の機会を促す。

進め方：

○あり方委員会の説明 全体 or グループごと

○あいさつ（お願い）

○自己紹介、参加者紹介（名前確認）

○日頃活動から感じていること ※一度、全員から一回は話してもらう。

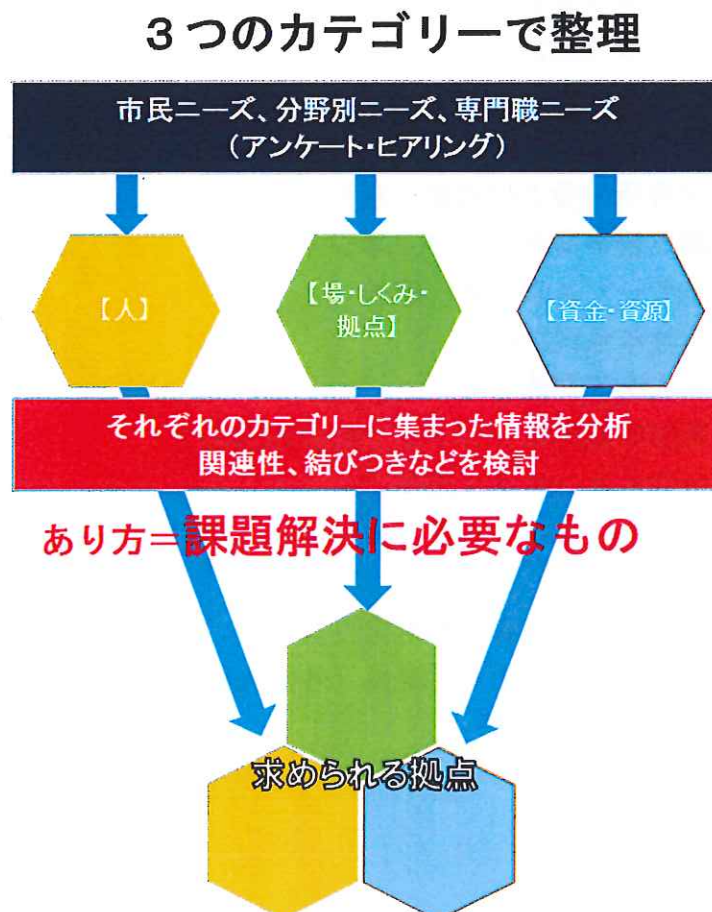
○課題出し ※整理は聞き手で行う。途中で整理をする。

○まとめ

#### 5 調査整理

ヒアリング結果を黒部市社会福祉協議会の内部（全職員参加）に設置したワーキングチームが、課題を大きく「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し整理を行った。その結果を最終的に「拠点に求められる機能」として集約した。（図1）

（図1）



## 6 調査結果まとめ

「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し課題整理を行った上で、さらに共通的な課題、少数派（マイノリティー）の課題、複合的な課題にまとめた。（図2）

### （1）【人】

どの団体や分野からも人材の不足、担い手の育成などが共通課題であった。また、少数派である外国人の支援、支援を拒む人への対応策という課題も見えた。複合的な課題として人を育てるためのしくみや基盤となる場や機能が少ないということが分かった。

### （2）【場・しくみ・拠点】

支援を必要とする当事者やその家族、また支援者が福祉のことについて相談できる場が分からない、情報発信と収集が一本化されていないという声が多かった。また、【人】の課題と共通するような養成や育成、研修などを行う場などが求められていることが分かった。複合的な課題として、活動者同士が交流できる場、発表できる場も求められているが分かった。

### （3）【資金・資源】

活動費を助成するしくみなどはあるものの、運営に係る経費や事務的経費を支える財源が不足し、活動を阻害していることが分かった。また、団体が活動するときに使える拠点がある地域とない地域によって地域格差があることが分かったとともに、資金と活動を上手く結びつけるコーディネート機能が必要であることも分かった。

3つの課題整理一覧

（図2）

【人】	【場・しくみ・拠点】	【資金・資源】
<b>【共通的な課題】</b> ・担い手 ・意識／理解／質  <b>【少数派の課題】</b> ・外国人の生活 ・支援を拒む人  <b>【複合的な課題】</b> ・人材育成 ・基盤となる場	<b>【共通的な課題】</b> ・相談できる場 ・養成／育成／研修 ・情報の発信や収集  <b>【少数派の課題】</b> ・障がい者／高齢者の移動 ・災害時支援の拠点  <b>【複合的な課題】</b> ・発表の場 ・交流の場	<b>【共通的な課題】</b> ・事務的活動経費 ・運営経費  <b>【少数派の課題】</b> ・行政サービスの格差 ・地域格差  <b>【複合的な課題】</b> ・資金と活動のマッチング ・持続可能な団体運営

## 団体別ヒアリング結果報告書

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会「ヒアリング」実施一覧

番号	実施日	実施団体	参加者	分野
1	平成28年2月29日	シェアフィールドひまわり	職員 6名	障害福祉（知的・精神）
2	平成28年3月3日	黒部市民生委員児童委員協議会	民児協理事 15名	地域支援活動者
3	平成28年3月10日	シニアサポーター（三日市保育所）	シニアサポーター 9名	子育て・保育
4	平成28年3月10日	三日市保育所/愛児保育園	職員 21名	保育・専門職
5	平成28年3月10日	黒部市身体障害者協会	役員 10名	障害福祉（身体）
6	平成28年3月16日	黒部市職員	福祉課、健康増進課、包括 計7名	行政福祉
7	平成28年3月16日	黒部市ボランティア部会協議会	地区ボラ部会長 10名	地域支援ボランティア
8	平成28年3月16日	黒部市老人クラブ連合会	老人クラブ役員等 19名	高齢福祉
9	平成28年3月17日	市内ボランティア団体	ボランティア団体 30名	ボランティア・市民活動団体
10	平成28年3月18日	居宅介護支援事業所	ケアマネージャー 8名	介護福祉
11	平成28年3月24日	地区社会福祉協議会	事務担当者 20名	地区社協
12	平成28年4月10日	日本語教室in黒部	会員 5名	外国人支援
13	平成28年4月11日	大布施地区（壮年世代）	60代 9名	地域関係者
14	平成28年4月15日	介護保険サービス利用者	利用者、家族 5名	介護福祉
15	平成28年4月20日	せせらぎハウス黒部	職員、スタッフ 5名	障害福祉（精神）
16	平成28年5月1日	社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会	くろべ工房保護者（新川地域） 18名	障害福祉
17	平成28年5月23日	生地蒲鋒有限会社	社長、従業員（外国人） 2名	外国人就労

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年2月29日(月) 16:00~17:00
実施団体	社会福祉法人 にいかわ苑 シェアフィールドひまわり
人数	職員6名(松岡、川平、植木、山崎、岩井、山本)
聞き取り	( 濱松 ) ( 能登 ) ( 小柴 )
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	社会福祉法人にいかわ苑シェアフィールドひまわりは、H27年4月にこれまでのひまわり福祉作業所から母体をにいかわ苑に置き開設した。知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者の就労継続支援B型として位置づけされている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者19名(割合は男2:女3)19歳~60代</li> <li>・職員6名</li> <li>・活動は9:20~16:00</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在ある相談支援事業所が分かりづらい。</li> <li>・工賃UPの課題がある。県内では悪くはないが十分ではない。</li> <li>・職員が変わることによってムードの変化がある。</li> <li>・病状の管理、把握が難しい。</li> <li>・利用者や家族が高齢となり職員としてどのように関わっていけばよいか。</li> <li>・市内での相談支援事業の体制が職としての関わりであり事務的。</li> <li>・利用者の思いや意見をどう拾うか。</li> <li>・別に集められている感じがある。排他的である。</li> <li>・趣味や生きがい活動の場が少ない。</li> <li>・現在の福祉センターは高齢者向けである。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援の場(事務的ではないところ)</li> <li>・相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえるところ</li> <li>・色々な人たちとの交流、人と関わる場所</li> <li>・障がい者も来れる場、地域住民との交流が必要</li> <li>・障がいへの理解(福祉教育)</li> <li>・施設外での就労</li> <li>・自主製品の開発</li> <li>・働く場の開拓</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 意識啓発：障がい者への理解(福祉教育)</p> <p>【場・しくみ・拠点】 機能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場 中間支援としての相談場所 拠点：障がい者の人々も集う場 いろいろな人たちとの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p> <p>【資金・資源】 雇用：障がい者の働く場、雇用の開拓 活動資金：自主製品や事業収入の確保</p>



地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月3日(木) 15:00~16:00
実施団体	黒部市民生委員児童委員協議会 理事協議会
人数	民児協理事15名
聞き取り	( 瀨松 ) ( 能登 ) ( 宮崎 ) ( 小柴 ) ( 佐渡 )
実施方法	5人一組で3グループ分かれてヒアリングを実施
団体概要	黒部市民生委員児童委員協議会は12単位民児協に各地区会長を置き、市内111名の民生委員児童委員の組織である。地域の身近な相談役として、様々な地域での支援が必要な人の相談や支援をつなぐ活動をしている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢世帯の増加に伴い、町内単位では見守り等の支援者となり支える人が不足してきている。</li> <li>・民生委員児童委員だけでは、要支援者を支えきれない。</li> <li>・子どもへの支援政策が少ない。</li> <li>・民生委員の担当数(世帯、支援者)に差がある。</li> <li>・16地区、更に地区町内単位の差、町内格差(高齢化等)が生まれている。</li> <li>・個人情報把握できなくなっている。</li> <li>・情報の共有が難しい。情報が活用されていない、反映されていない。</li> <li>・生活困窮者の事例が把握できない。</li> <li>・民生委員の質が問われている。(人選・推薦方法)</li> <li>・田家地区では、自治会、ボランティア、民生委員児童委員の合同会議を月1で実施。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員児童委員だけでは、要支援者を支えきれない。(仕事が多い)</li> <li>・民生委員の人選に関われない。若い人の成り手がいない。</li> <li>・ボランティアでは出来ない活動になってきている。</li> <li>・家族構成の変化、意識の変化、町内格差。(高齢化等)</li> <li>・情報は溢れているが、活かしていない、必要な情報まで届かない。</li> <li>・ケアネット事業と見守り事業の整理。</li> <li>・子どもを支援するしくみが少ない。</li> <li>・コピー代などの事務経費がない。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有、相談窓口の一本化、情報の交通整理。</li> <li>・高齢福祉に偏らない幅広い支援体制、若い人を巻き込むしくみ。</li> <li>・地区社協の役割を明確にして、自治振興会との連携体制をとりつつ、地域内の福祉を推進していく機能を備える必要がある。</li> <li>・地域を支える支援者を増やしていく。</li> <li>・地域支援活動をする団体や人が集える場、場所を確保してほしい。</li> <li>・研修だけではなく、悩みや相談を支援者同士が話し合える場が必要。</li> </ul>
まとめ(二ーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：支える人を育てる=民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要。 担い手：ボランティアの確保、育成 意識啓発：福祉教育、社会教育の推進=民生委員の必要性、活動の理解 「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって(利用者：支援者=5：5) たらい回しを無くす、ここに聞けば分かる。 機能：情報の交通整理と一元化、情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。 拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場 しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担。 しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。 その上で役割分担を</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。 活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 9:30~10:00
実施団体	シニアサポーター(三日市保育所)
人数	9名 男:1名(富山市在住) 女:8名(市内在住)
聞き取り	(小倉)(濱松)(杉本)
実施方法	1グループでの聞き取り(ペーパータオルの裁断作業をしながらの聞き取り)
団体概要	シニアサポーターは、約10年前から黒部愛児園で、子育ての喜びを地域の方々と共有したいと思い、保護者や家族を中心として始まった活動で、現在では、三日市保育所での行事等のお手伝いや、園児とのふれあいを通して、子供支援ボランティアとして活動している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者:30名(年齢制限なし) 活動経験年数:4か月~10年間</li> <li>・活動回数:月1回(第1木曜日) 活動時間:9:30~11:00</li> <li>・活動者実人数:平均5~6名</li> <li>・活動時、お揃いのピンクのエプロンを着用している。(明るい印象)</li> <li>・民営化になり若い職員が増え、子供との接し方にも違いがみられる。</li> <li>・時間外対応も柔軟である。</li> <li>・職員の人手不足のため、先生の応援団として何かできればと思い関わっている。</li> <li>・子供とふれあうことで元気がでる。</li> <li>・自分の介護予防になる。</li> <li>・子供の悩みを聞くことが出来る。</li> <li>・共働き世帯や核家族化により高齢者とのふれあいが少ない。</li> <li>・寂しい顔をしている子供がいる。</li> </ul> <p>○課題(モチベーションが高く全体の課題はなし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足</li> <li>・60~70代がほとんどで、若いメンバーが少ない。</li> <li>・職員に迷惑をかけない活動をしていきたい。</li> <li>・お金には関係なくできる活動である。</li> <li>・自分たちのためになることなので、お金は(謝礼等)は必要ない。</li> <li>・参加して得るものがある、それこそお金には変えられない財産である。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後世に伝えていきたい。</li> <li>・自分たちで企画もしてみたい。(花壇をつくる等)</li> <li>・研修会に出席することで他の活動を知り、自分たちの活動にも活かしたい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 担い手:シニアサポーターをPRし、仲間を増やしていく。</p> <p>【場・しくみ・拠点】 拠 点:誰でも気軽に行ける交流の場。(子供、親、高齢者等) 相談、研修、子守り、ふれあいから出会いの場、発見の場に。 自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす。</p> <p>しくみ:自分達のできる活動を広げる。(花植え等)</p> <p>意 識:自主的に行う活動も取り入れ、毎月参加できるよう健康に気をつける。</p> <p>【資金・資源】 活動意識:お金に関係なくできる活動である。 意 識:お金で買えないもの、変えられないもの 意 識:参加することで得るものは財産である。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 14:00~14:40
実施団体	三日市保育所・愛児保育園
人数	職員21名
聞き取り	(小倉)(濱松)(能登)(宮崎)(杉本)(山瀬)(佐渡)
実施方法	21名を対象に3グループ7名に分けヒアリングを行う
団体概要	社会福祉法人あいじ福祉会で運営する三日市保育所及び愛児保育園は、10年前に公立から民営化された。これにより、児童の受入れ体制を充実させ、さらなるサービスの向上に努めた活動を行っている。現在、問題化している待機児童はほとんどなく、緊急性のあるケースは一時預かりで対応し、延長保育・休日保育などのサービスにも柔軟に対応している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児：180名(三日市保育所)85名(愛児保育園)</li> <li>・職員：70名(内訳：保育士、調理師、栄養士、看護師、事務員)</li> <li>・常に多職種が連携するため、15分刻みのシフトを組んで対応。</li> <li>・10年前に公立から民間になり、毎月新入児を受入れ、園児の人数は増加。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足。保育士の資格を持っていても保育士の成り手がいない。賃金が低い等の問題がある。</li> <li>・日中は園児を見ているので、できない仕事を家に持ち帰っている。</li> <li>・病児保育。熱があっても親の仕事の都合で預かることがあり、急変時の対応の際、親への連絡がスムーズに取れない。</li> <li>・自分の子育てのためには、仕事を辞めざるを得ない。</li> <li>・子供を持つ親の価値観が違ってきている。</li> <li>・子育てを教えてくれる相談相手が身近にいない。</li> <li>・シニアサポーターを増やしたいが、PRの方法や募集の方法が分からない。</li> <li>・育児休業についての企業の理解が必要。</li> <li>・病児の預かりはしても精神的な支えは母親にしかできない部分が多いため、職場で休みが取れるしくみが必要。</li> <li>・職員の休日が取りづらく、公的機関の平日の用事ができないことがある。</li> <li>・土日の人員配置が難しい。</li> <li>・身近に気軽に行ける相談場所がない。</li> <li>・ひとり親、発達障がい児を持つ親の相談相手や相談場所がほしい。</li> <li>・新川地区には、子供の遊ぶ所、集まる場が少ない。</li> <li>・児童センターが市内に2か所しかない、地域によって格差がある。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候にかかわらず、図書館・喫茶店など様々な機能の集まった富山型のような施設があったら良い。新川地区には、子供の遊ぶ所、集まる場が少ない。</li> <li>・高齢者、子供、障がい者など年代を問わず身近な地域で集まる場所がほしい。</li> <li>・専門職同士で、日頃の悩みを言い合えたり、交流する場がほしい。</li> <li>・寝たきりの老人でも園児とふれあえる場がほしい。</li> <li>・多職種の交流の場がほしい。</li> </ul>
まとめ(二一ス)	<p>【人】</p> <p>担い手：支える人を育てる。保育士として資格を持っている人材を集める。 担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成。 意識啓発：福祉教育の推進＝「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場(働き手を支える) 機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場(相談機能の充実) 拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場 しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化 地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費：黒部市の補助金(子育て支援)が近隣の市町村より少ない。 利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。(一日あたり2,500円)</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 13:30~15:40
実施団体	黒部市身体障害者協会
人数	役員10名(男:9名、女:1名)
聞き取り	( 小柴 ) ( 坪崎 )
実施方法	役員会での聞き取り
団体概要	市内の身体障害者を中心とする団体で援護思想の普及及び障害者福祉の向上、更生意欲の高揚を図ることによって、社会参加活動を促進し、もって身体障害者の福祉増進に寄与することを目的とした団体。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴券の代わりにガソリン券に変わった。</li> <li>・会員が減っている。</li> <li>・関わってほしくない人が多い。</li> <li>・団体に入りたがらない。</li> <li>・該当者がいるはずだが、入会者が少ない。</li> <li>・意識の高い人とそうでない人の差がある。</li> <li>・会員に内部疾患が増えている。</li> <li>・60代以下の会委員がいない。(平均74.5歳)</li> <li>・支部長がいない。(前沢・田家)</li> <li>・役員をさせられる(意識の人)と思っている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員を引き受ける人がいない。</li> <li>・会員になる人がいない。(老人クラブに流れていく)</li> <li>・住民の意識が低い。</li> <li>・個人情報が入ってこなくなった。</li> <li>・会員のメリットの情報発信がない。</li> <li>・会員同志の交流の場がない、少ない。</li> <li>・市から該当者あてに協会の情報が届かない。</li> <li>・重度身障者のリフレッシュ事業の場が少ない。</li> <li>・支部長がいない地区は会費が集まらない。</li> <li>・市からの協会への補助がなくなってきている。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの有無にかかわらず集まれる場</li> <li>・障がい者に関わり合ったりできるしくみ</li> <li>・情報のやり取りが直接できる場</li> <li>・困ったときだけに限らず、声を出せる仕組み、場が必要。</li> <li>・災害時の対応についての機能の整備</li> <li>・災害時の要支援者の把握</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：役員を引き受ける人がいない。会員減少 意識：障がい者への理解 意識：障がい者の意識(関わってほしくない人もいる) 意識の高い人とそうでない人の格差がある。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ：個人情報(対象者)の把握 機能：障がい者のリフレッシュできる場 組織：組織運営していくしくみ 拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場 拠点：情報の拠点、やり取りできる場 機能：災害時の対応についての機能の設備、要支援者の把握</p> <p>【資金・資源】</p> <p>活動資金：市からの協会への補助がなくなってきている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会

ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 10:00~11:30
実施団体	黒部市職員
人数	7名(内訳:福祉課3名、健康増進課2名、市包括2名)
聞き取り	(小倉)(瀧松)(杉本)(小柴)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	福祉課、健康増進課は行政機関として福祉・保健管轄を担っている担当課である。黒部市地域包括支援センターは行政が直営し、市内の西部地域を担当とした区域での介護予防支援等の業務を担っている。(市内には2か所の包括があり、東部地域は社会福祉協議会が受託している。)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政にも専門性が問われるようになってきている。</li> <li>・相談内容が複雑多様化している。</li> <li>・包括が2か所になり、地域に近い位置に相談体制の強化を図った。</li> <li>・保健師の訪問、地域に出向くことが減っている。</li> <li>・市民にとって、市への相談のハードルが高い。</li> <li>・市が困ったら、県に聞く、事業所に聞く、地域ケア会議をする。</li> <li>・マンパワーの不足。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の異動により、継続的に支援できない。専門性の担保ができない。</li> <li>・相談員の質、民生委員の相談役。</li> <li>・何に関してもコーディネーターがいないと難しい。</li> <li>・各機関の地区担当を知らない、連携がない。</li> <li>・市民にとって市への相談のハードルが高い、行きづらいといわれる。</li> <li>・事業の積み上げがうまくいかない。</li> <li>・社協との情報共有の不足。</li> <li>・地区担当が分からない、連携していない。</li> <li>・認知症相談窓口は開いたが、相談者がこない。</li> <li>・研修のフォローアップ</li> <li>・情報の共有とネットワーク</li> <li>・地域支援事業に関する予算はあるが、しくみをつくるのは難しい。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意識改革(福祉教育)</li> <li>・包括2か所目は社協や新しい拠点に</li> <li>・色々な団体の事務局が一か所で</li> <li>・福祉のことは「ここ」と分かるところ</li> <li>・民生委員が相談できるところ、相談員の質の向上</li> <li>・専門職の連携、ネットワーク、顔合わせが必要</li> <li>・何に関してもコーディネーターが必要</li> <li>・市民が出かけてしゃべれるところ</li> <li>・生活困窮者が無料で休めるところ、入浴できるところ、泊まれるところ</li> <li>・食品、生活必需品の保管庫</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:専門性の担保 担い手:コーディネーターの確保、育成 意識啓発:認知症・障がいの理解(福祉教育)</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能:ここに聞けば分かる相談窓口一本化、たらいまわしにしない。 機能:地域ケア会議の開催 拠点:いろいろな団体の事務局が一か所に 拠点:行政職員、専門職が集まれる場所(顔合わせ)</p> <p>【資金・資源】</p> <p>資金:拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 14:30~15:00
実施団体	黒部市地区ボランティア部会協議会
人数	地区ボラ部会長10名
聞き取り	( 小倉 ) ( 杉本 ) ( 佐渡 ) ( 坪崎 )
実施方法	5人一組で2グループに分かれてヒアリングを実施
団体概要	黒部市地区ボランティア部会協議会は、地域に根ざしたきめ細かいボランティア活動を推進している組織である。各地区にボランティア部会会長を置き約1,000名の会員が活動している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動回数 平均週1回(地区行事等の参加、施設訪問等)</li> <li>・女性の登録者が多い。</li> <li>・登録者が毎年増加している。(団塊の世代60代)</li> <li>・きっかけは知り合いから声をかけられた。</li> <li>・活動してみたら楽しかった。</li> <li>・仲間とふれあえる。</li> <li>・登録はしているが、年をとっているから活動を控えている。</li> <li>・組織に位置付けされているため活動しやすい。</li> <li>・同じメンバーで活動している。</li> <li>・振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の不足</li> <li>・地区のリーダーによって格差がある。</li> <li>・活動時間の確保が難しい。(平日が多い)</li> <li>・活動者同士が気軽に集まれる場がない。(相談、研修)</li> <li>・情報発信手段が不足している。</li> <li>・事務経費を負担している。(地区社協で格差あり)</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供からお年寄りまで誰もがいつでも集まりやすい場が必要。</li> <li>・情報発信して登録者を増やしたい。</li> <li>・入って良かったと思える活動をしていきたい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：同じメンバーで活動している。 担い手：担い手不足 地域格差：地区のリーダーによって格差がある。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ：活動時間の確保が困難(平日が多い) 拠 点：活動者同士の気軽に集まる場がない。(相談、研修) 機 能：情報発信手段の不足</p> <p>【資金・資源】</p> <p>事務経費：事務の経費を負担している。(地区社協で格差あり) 活動財源：振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 15:30~16:00
実施団体	黒部市老人クラブ連合会
人数	役員19名
聞き取り	( 濱松 ) ( 小柴 ) ( 能登 ) ( 宮崎 )
実施方法	19名を対象に2グループ10名と9名に分かれてヒアリングを行う
団体概要	黒部市の老人クラブは地域を基盤とした高齢者の自主組織である。会員数は5,400名あまり(男3:女7)で、概ね60歳以上の方が入会できる。会員の話し合いによってそれぞれの地域ごとに地域の高齢者の生きがいにつながる活動や元気クラブづくりの活動に励んでいる。黒部市老人クラブ連合会は地域の代表が相互にかかわりを持って総合的に取り組んでいる。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員は70代後半~80代が多い。女性リーダーが3名いる。</li> <li>・会員が高齢化し、担い手がない。役員を探すのが大変である。</li> <li>・宇奈月地区は60歳から入会(強制入会の地区有)70歳は声掛けして入会する。</li> <li>・田家地区は世話人がいなく解散した。訪問支援活動に地域差がある。</li> <li>・いつまでできるか分からないが、できるだけ関わって活動し、老人クラブ連合会を残していきたい。</li> <li>・宇奈月地区の活動、慰問訪問、支え合いサロン、手芸の集い、軽スポーツ、訪問支援活動を行っている。</li> <li>・一人暮らしの訪問を民生委員の人に止められた。</li> <li>・名簿の共有が難しい。</li> <li>・環境を整えないのは行政が悪い、住民がいなくなる。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・60~70代の会員が少ない、世話役のなり手、女性のリーダーが少ない。</li> <li>・住民がいなくなる。(消滅地域)</li> <li>・老連と地区社協、民生委員、振興会の連携ができていない。</li> <li>・高齢化による地域格差</li> <li>・老人クラブのパワーを活かせる場、しくみが無い。</li> <li>・老連は世話ばかりするイメージがある。</li> <li>・市、社協からの情報が届いてこない。</li> <li>・資金が不足している。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方も社会全体で支える、ケアの専門家が常駐している場が必要。</li> <li>・元気な高齢者(老連)の活動できる場、役割を持つこと。</li> <li>・働くこと、支え合う活動をしたことに対してポイント制などの仕組みを作り、そのポイントを後世の人が使える仕組みを伝えていきたい。</li> <li>・市全体で役員が集まる場が欲しい。</li> <li>・老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブであってほしい。</li> <li>・福祉センターは高齢者の集う場としてなくてはならない場所である。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:会員を集める。(60代) 担い手:転入者の受け入れの対応 意識啓発:老人クラブの魅力をアピールする。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能:老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。 機能:老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ 拠点:高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。 (椅子やテーブルがある今流行りの部屋、エレベーター等) 拠点:老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が必要である。 拠点:大布施と浦山の間に1拠点を作る。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費:老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事がある時は実費。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月17日(木) 14:00~14:45
実施団体	市内ボランティア団体(ボランティア連絡会)
人数	30名(男:8名、女:22名)
聞き取り	(小倉)(濱松)(能登)(杉本)(小柴)(山瀬)(佐渡)(坪崎)
実施方法	4グループに2名ずつ分かれて入り、ファシリテーターと聞き取りを役割分担する
団体概要	ボランティア連絡会は平成18年合併時は年1回開催し、平成20年度からは継続して年2回開催している。市内ボランティア70団体に案内し、ボランティア団体の情報交換や市社協からの情報提供の場としている。今回のボランティア連絡会は9月に行われた連絡会でも出された課題について「自分たちで解決に向けてできること、くろべボランティアセンターに求めること」4グループに分かれ話し合いし、各グループから発表をいただき参加者にて情報共有を図った。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やること(行事)がたくさんある。</li> <li>・楽しいから続けている。緊張感が良い。ボランティアで教えてもらえる。</li> <li>・婦人会からボランティアに</li> <li>・企業、組織化、仕事の一環</li> <li>・青年会議所の会員(40才まで)が減っている。</li> <li>・地区で役員が男性、ボランティアは女性</li> <li>・地域の施設を有効活用している。</li> <li>・活動費なし、会費で運営。活動の負担金を参加者などから徴収している。</li> <li>・公民館の利用料が高い。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なり手がいない。新規加入が少ない、新たな加入が殆どない。</li> <li>・会員の高齢化、年齢の偏り、男性の会員不足</li> <li>・気軽に集まれる場、多様な団体が集まり集える場が少ない。</li> <li>・センターが暗い、何があるか分からない。</li> <li>・スキルアップや指導を受けるしくみが少ない。</li> <li>・活動従事者の相談の場所がない。</li> <li>・ボランティア同士の情報交換の場がない。</li> <li>・資金をどう確保すればよいか、財源が少ないため活動に支障をきたす。</li> <li>・民間助成金や寄付金の活用</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動を考え相談できる場</li> <li>・ここに来れば情報発信できる。</li> <li>・情報が得られる拠点、活躍する拠点がほしい。</li> <li>・ボランティアのハードルを下げたりやすくする。</li> <li>・情報のプラットフォームが必要(社協のプラットフォームにのせる)</li> <li>・ボランティア活動者の相談の場</li> <li>・活動費の確保、無料で活動費が使いやすいところ</li> <li>・ボランティア講座の体験学習</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:リーダーの養成、人材の確保 意識啓発:コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進。 意識啓発:ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>拠 点:気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場 時間やお金を気にせず会話や集まりができる場 しくみ:プラットフォームとして情報の発信や収集ができる場 活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用 専門分野のスキルを伸ばしたい。 企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営資金:自主財源の確保 活動資金:資金を集める方法 活動資金:民間助成金や寄付金の活用</p>



地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月18日(金) 15:30~16:30
実施団体	居宅介護支援事業所 ケアマネージャー
人数	8名(池田リハ、市民病院、桜井病院、越路さくら在介、つばき苑、越之湖、越野荘)
聞き取り	( 濱松 ) ( 能登 ) ( 栃林 )
実施方法	8名を対象にヒアリングを行う
団体概要	黒部市内に居宅介護(介護予防)支援事業所は13か所あり、31名のケアマネジャーが居宅介護支援の業務に関わっている。主に、介護の相談、助言、介護保険申請代行、ケアプラン作成などのケアマネジメント業務を行っている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯だけでなく、世帯で多重課題を抱えている。</li> <li>・いつも時間に追われている。</li> <li>・以前より新規の利用者が減っている。</li> <li>・介護保険制度が変わるたびに対応や事務的に大変である。</li> <li>・事業所加算の対応により、業務に追われ支援に影響している。</li> <li>・認知症カフェの来所者が少ない。(認知症の方が増えているはずだが…)</li> <li>・ケアマネからの相談に追われ、自分の業務が進まない。</li> <li>・他の職種に相談しづらい。理解してもらえない。(無関心)</li> <li>・一人で任されるのもつらい。</li> <li>・管理者として優遇されているが、優遇されていない事業所もある。</li> <li>・認知症の問題行動が多く、サービス事業所の受け入れが難しい。</li> <li>・受診のサポートが難しい。</li> <li>・民生委員の役割を知らない、分からない。</li> <li>・相談員(特に市、県)の顔を知らない。</li> <li>・仲間同士で支え合っている。同職種で話すと安心できる。</li> </ul> <p>社協について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協と連携して負担が減った。地域ケア会議は助かった。</li> <li>・何をしているか役割が分からない、存在感がない、誰に相談するのか。</li> <li>・ケアネットは聞くけど、実際に関わらないと分からない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人が見えてこない。</li> <li>・独居で家族の協力が得られない。</li> <li>・認知症の行動、徘徊はサービスだけでは支えきれない。</li> <li>・異動が多いと大変である。</li> <li>・市、包括、社協の連携がうまくいっていない。</li> <li>・ケアマネジャーの仕事内容を分かってもらえない。</li> <li>・介護保険サービスだけでは生活は支えられない、住民だけでも支えられない。</li> <li>・行政の対応は、発信しなければ動かない、発信できない人をどう支えるか。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民との連携、ケアマネと民生委員の連携</li> <li>・民生委員の研修(介護保険)</li> <li>・住民の目線に合わせた会議の開催。</li> <li>・相談場所(市に行きづらい)、話しやすい所(敷居が低い所)</li> <li>・今日の場面のような同業者、同職種集う場があればいい。</li> <li>・民生委員と気軽に会って話せる労いの場があればいい。</li> <li>・医療と介護だけの連携ではなく、社協に入ってほしい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：ケアマネジャーの相談役(メンタルヘルスの支援) 意識啓発：民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：多職種との連携 社協とケアマネとの連携、医療(医師)との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：行きやすい相談場所 同職種の集う場所、一か所での相談場所(障がい、行政職も待機している場所)、多職種が気軽に集える場所(民生委員も)</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月24日(木) 11:15~11:50
実施団体	地区社会福祉協議会
人数	事務担当者20名
聞き取り	(小倉) (濱松) (能登) (杉本) (山瀬) (中野) (佐渡) (坪崎) (橋本)
実施方法	3グループに分かれて聞き取り
団体概要	地区社会福祉協議会(地区社協)とは、住みよい地域の実現を目指し、地域住民の助け合いを育てるための組織である。黒部市内では16の地区すべてに設置され、それぞれ地域での福祉活動を展開している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の親を公民館に取り込み、支える人を増やす。</li> <li>・子供ケアネット(メールでやりとり)</li> <li>・子供の減少。高齢者に力を入れている。</li> <li>・役員や行事に参加する人が年々減少、なり手不足。</li> <li>・年々行事が増えているが、動く人が同じ。</li> <li>・福祉活動の見える形まで時間がかかる、可視化を目指している。</li> <li>・福祉と防災を巻き込みマップ作り、地区各種役員を巻き込んでいる。</li> <li>・市社協の事務連絡が遅い。</li> <li>・社協の事業はややこしいので、もう少しスッキリさせて欲しい。</li> <li>・月3回オレンジカフェを開催(参加費徴収)おしゃべりと手先を動かす。</li> <li>・男性の料理教室と親子で巣箱づくりを組み合わせると三世代交流。</li> <li>・市は相談しにくい、歩み寄る姿勢がない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人がいない。男性がいない。若い世代が参加できる場が必要</li> <li>・人が多いとまとまりがない。</li> <li>・バスハイクなどで個人の見守りが出来ない。(責任、不安)</li> <li>・高齢者は出掛けたいが一人でどこにも行けない、移動手段がない。</li> <li>・市と市社協の連携が必要</li> <li>・人が変わりすぎる、市や社協は異動がある。</li> <li>・地区担当者や会長の間で温度差がある、役員の研修をして欲しい。</li> <li>・ボランティアの意識がない。(特に役員)</li> <li>・公民館でできることが限られる。</li> <li>・地域が追い付いていない。</li> <li>・事業のマンネリ化</li> <li>・地区社協と民児協の情報交換不足</li> <li>・財源の確保</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。</li> <li>・誰でも集まれる場、安全に、自由に、児童や高齢者も</li> <li>・土日祝日、夜間も利用できる場所(朝風呂や24H風呂)</li> <li>・拠点への交通手段</li> <li>・全天候型の施設(周りでウォーキングができる場所)</li> <li>・高齢者向け(趣味)の情報が欲しい。</li> <li>・他地区の行事の情報共有や参加</li> <li>・複数地区合同のサロンがあったら良い。</li> <li>・研修できる場や情報交換できる場が欲しい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：若い人がいない。男性がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。</p> <p>機能：土日祝日、夜間も利用できる場所</p> <p>拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も</p> <p>拠点：研修できる場や情報交換できる場</p> <p>【資金・資源】</p> <p>活動資金：財源の確保</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月10日(日) 14:00~15:00
実施団体	日本語教室 in 黒部
人数	会員5名(黒部市3名、入善1名、滑川1名)
聞き取り	(小倉)(濱松)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成21年4月1日設立、地域で生活する外国人への日本語学習支援、多文化共生(外国人も日本人も互いに文化の違いを認め合い、共に生活しやすい町づくりを目指す活動)のまちづくりを目的として発足。現在は指導者10名、参加登録者は100名で、コラーレ(日曜日)、三日市公民館(土曜日)にて活動を行っている。教室開催中は一時保育も行い、生活に不安を抱える外国人に対して外部講師を招いたり、生活に密着した支援を行っている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動者(ボランティア)は10名、参加者は年間延べ100名</li> <li>・生きた日本語を身につけている、求められている。</li> <li>・生活情報を伝える役割(プロではない)</li> <li>・子どもを持つ母親に、学校のおたよりを読んであげている。</li> <li>・PRは特にはしていない、会社で情報提供を受け、相談に来る人が多い。</li> <li>・市役所のホームページから入るとつながる。</li> <li>・どうやったら伝わるのかを工夫している。</li> <li>・日本の常識が通じない、習慣でないだけで悪いわけではない。</li> <li>・ベトナムからの企業研修生が増えてきた。</li> <li>・テクニカルな質問もある。</li> <li>・どのようなことに困っているのか、ニーズを把握している。</li> <li>・どうやったら困りごとを解決できるか、市に相談している。</li> <li>・出前講座をしてもらった。ゴミの分別(市民環境課)、病院、消防署等</li> <li>・フィリピン、アメリカ…治安が悪い、考え方が違う。</li> <li>・予算に限りがあるため無料の公民館も使用している。</li> <li>・コラーレ内のイベントが優先で部屋の移動を余儀なくされることもある。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人(ボランティア)が少ない。</li> <li>・市民や地域の多文化共生の理解がない。行政の人にも理解してもらいたい。</li> <li>・外国の方の人権擁護</li> <li>・活動の場が狭い。お金のかからない場所が必要</li> <li>・もっと多くの人に参加できるようになればよい。</li> <li>・備品はあるが、高価な備品が用意できない。</li> <li>・説明のために、地図や写真が伝えやすい、ipadがあればいい。</li> <li>・赤い羽根共同募金は、少ない会員には負担が多い。(事務的な面、募金活動)</li> <li>・資金がない、市補助金だけでは難しい。</li> <li>・助成金申請は活用したいが申請書手続きが面倒である。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの人数が増えるとよい。</li> <li>・相談窓口を明確に(多言語表示)、ここに行けばわかる場所が必要。</li> <li>・外国人はもっと増える、支援がほしい。</li> <li>・多文化の人も受け入れる人を育てる、地域に広く伝える。</li> <li>・子どもの頃からの福祉教育</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。 意識啓発：福祉教育=多文化共生の理解</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：相談窓口を明確に(ローマ字も)、ここに行けば聞ける場 機能：転入の際の情報の伝達をきちんと、しっかりと 拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場(多文化、多国籍の人の集う場) しくみ：地域で受ける。顔がみえる。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>活動資金：備品や活動のための資金、負担なく助成を受けられる資金</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月11日(月) 13:30~15:00
実施団体	大布施地区(壮年世代)
人数	60代9名
聞き取り	(小倉)(濱松)(小柴)(杉本)(山瀬)
実施方法	9名を対象に聞き取り 島崎(大布施公民館主事)、更田(中新町内会長)、沓(沓掛)、山本(植木町内会長)、平野・川添(大布施ボランティア)、藤沢(民生委員会)、新村(民生委員副会長)、川添(沓掛町内会長)
団体概要	大布施地区の壮年世代の方々。町内会長を担う人、ボランティア団体の代表、民生員児童委員、地区老人クラブ役員等
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <p>中新:「ここにこサークル」75歳以上、月1月(第3水曜日)10年以上活動 活動内容は、保健師による健康指導・脳トレ・音楽・もみじがり等</p> <p>植木:壮年会と健寿会(老人会)の中間層の実年会を作り活動 老人会には早い60代の男性を勧誘</p> <p>沓掛:祭り(ししまい)があるので人がよく分かっている。壮年会をやめてもOBとして祭りにつながり、活躍している。婦人会解散後、女性委員として活動している。(沓掛ふれあい会等)子供の年代により「新妻会」「若妻会」で行事を行う。「えざらい」の参加率はとても高く、一生懸命やってくれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大布施、植木は他の地区に比べて、高齢化率は高くない住みやすい場所なので、若い人が増えている。</li> <li>・地域の中で活動を推進したいが、人が集まらないので、役員を順番に回している。</li> <li>・役員の時だけ一生懸命してくれる人がたくさんいる。</li> <li>・地域の中で話し合い、できることは自分たちでしようとする動きがある。</li> <li>・盆踊りに力を入れている。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の行事が多いため負担、そのため役員のなり手がいない。</li> <li>・高齢(70歳)でも働いておられるので頼めない。</li> <li>・女性委員での活動で、年代層が違くとやりづらい、価値観等が同じ年代のグループの方が活動しやすい。</li> <li>・若い家庭は子供のスポ少が優先し、地域の行事に関心がない、平日は共働きで、土日は外出され、ほとんど家にいないため、近所づきあいがいい。</li> <li>・グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。</li> <li>・守秘義務で情報が得られない、町内会長ぐらい知らないで見守りができない。</li> <li>・災害時の要援護者は地区の中できちんと把握しておく、情報公表の同意を取る。</li> <li>・いろんな問題の相談窓口が分からない。</li> <li>・民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい時から地域のつながりの重要性を意識できる仕組みづくりが必要</li> <li>・ボランティアの拠点と人材が必要、サポートしてほしい。</li> <li>・問題があった時のために、日頃からつながりを作ること。</li> <li>・人材をどう育てていくかが大事</li> <li>・民生委員を支えることが必要</li> <li>・高齢者が集える場として、サークル等の情報がほしい。</li> <li>・講習会等の学べる場がほしい。</li> <li>・各種相談のPRをもっとしてほしい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。 担い手:民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。</p> <p>意識:年齢層が違くとやりづらい、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。 意識:若い家庭は地区行事に関心がない。近所づきあいがいい。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ:グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。 しくみ:守秘義務で情報が得られない、見守りができない。 機能:いろんな問題の相談窓口が分からない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月15日(水) 14:00~15:00
実施団体	介護保険サービス利用者、家族
人数	5名
聞き取り	( 宮崎 ) ( 中野 ) ( 栃林 )
実施方法	自宅に訪問し、ヒアリングを行う
団体概要	介護保険制度の福祉サービスを利用している利用者、その家族
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <p><b>利用者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協がどこにあるかわからない。</li> <li>・昔は利用していたが、今は行ったことがない。</li> <li>・社協が何をしているのか分からない。</li> </ul> <p><b>家族</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしになった親の介護に時々来ているが、自分の家もあり二重生活になっている。</li> <li>・子どもたちは県外に住んでおり、兄弟も少ないので介護が負担になっている。</li> <li>・県外の自分の生活もあるので1か月単位で自分の家に連れてきたいが、いろいろ手続きが大変で、その間に親の家が空き家になるので管理をどうしたらよいかも心配になる。</li> <li>・施設の介護者が人手不足と聞く、介護の制度を利用して欲しい、自分たちも負担が大きくなるのが心配である。</li> <li>・包括支援センターより相談しやすい。</li> <li>・広報くろべはあまり見ていない。</li> <li>・地域の人は社協が何をしているのか分からない、アピールが足りないのではないか。</li> <li>・デイサービスの帰宅後に一人であるので心配、延長して長く預かってもらえる場が欲しい。</li> <li>・福祉のお金がどう使われているか分からない。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢が進み車に乗れなくなると交通手段がなく支援がないと暮らしもままならない。</li> <li>・地域で見守り員などの担い手がいない。</li> <li>・介護の事はケアマネージャーに相談できるが、どんな補助金があるか身体障害者などの手続きをどこにすればよいか、相談できる窓口を紹介してもらえる場が欲しい。</li> <li>・介護を受けるようになったら、本人が元気な時に交流があった人と会えなくなるので、交流できる場があればいい。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。</li> <li>・「ここに相談すればいい」と的確に相談できる窓口を紹介してもらえる場が欲しい。</li> <li>・元気な人と一緒に利用できる場が欲しい。</li> <li>・充実した移動手段とその場所へ行けばすべてのことが賄える場所の確保(買い物、食事、娯楽他)</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：的確に相談できる窓口を紹介してもらえる場</p> <p>拠点：地域の人に分かりやすい拠点</p> <p>しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場</p> <p>しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。</p> <p>しくみ：交流できなくなった人と交流できるしくみが欲しい。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営資金：福祉のお金がどう使われているのか分からない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月20日(水) 16:00 ~ 17:10
実施団体	せせらぎハウス黒部
人数	職員・スタッフ5名(常勤3名、非常勤2名)
聞き取り	(小倉)(宮崎)(山瀬)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成9年7月設立。平成16年3月社会福祉法人として認可を受ける。平成16年4月小規模通所授産施設としてYKKの建材部品の組立や検査などの業務を行っている。平成20年障害者自立支援法の指定障害福祉サービス事業所、就労継続B型事業所を開設。平成20年12月より、現在の場所へ移転した。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より施設長が変わり、職員は常勤3名、非常勤5名の合計8名</li> <li>・施設の定員は20名で、現在18名。年齢は23歳から69歳である。</li> <li>・就業時間は、午前8時から午後5時15分まで(平均工賃:54,015円)</li> <li>・サービス提供責任者や作業の指導員や身の回りの生活の支援員等が役割分担し、連携を図りながら障がい者に寄り添い自信を持てるように指導を行っている。</li> <li>・職員間の仕事の雰囲気は和やかである。</li> <li>・都市部は障がい者に対する意識・対応が充実している。</li> <li>・施設の修繕については、毎年、ほぼ自己資金で計画的に行っている。(近年、共同募金助成申請をしていない。)</li> <li>・利用者の生活相談の中で、家族の老後や死去にともない、利用者の将来の事を心配される相談が寄せられている。</li> <li>・黒部市の生活訓練委託事業を行っているが、月2回ぐらいをこなすのが大変。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員不足。募集をしても資格のある人がいない。(社会福祉士、看護師等)</li> <li>・スタッフは、お金よりボランティア精神のある人を育成したい。</li> <li>・家族の老後や死去に伴う利用者の将来の生活や支えてくれる人</li> <li>・工賃の向上、安定した仕事がほしい。</li> <li>・仕事の依頼がほしいが、どこに相談してよいか分からない。</li> <li>・利用者の家族も、どこに相談したらよいか分からない。</li> <li>・施設として半年ごとに目標を立て、書類の作成、提出が大変。</li> <li>・ネットやメールのやりとりとなり、データ化により見えにくく、計画が立てにくい。</li> <li>・他から人を入れたがらない県民性があるため、障がい者のヘルパー利用率は全国最下位。ヘルパーが入ることはメリット、デメリットがある。</li> <li>・黒部の社協は、他市町村に比べ障がい者に対する活動・接点がつらい気がする。</li> <li>・職員が運転して事故をおこすことが多く、現在はタクシー会社をお願いしている。</li> <li>・賃金が低いため、利用者の40~50代に就職希望者が出る。</li> <li>・助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、どこで何をしても見られている。</li> <li>・施設修繕等は自己資金で今は行っている。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア精神があって、専門の資格を持つ人材がほしい。</li> <li>・障がい者を支援してもらえるボランティアが必要</li> <li>・そこに行けばわかる、情報を一度に知れる拠点が必要</li> <li>・他の施設の職員との交流・情報交換の場がほしい。啓蒙の場がほしい。</li> <li>・障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 担い手:専門の資格を持つ人材の育成、障がい者支援ボランティアの確保</p> <p>【場・しくみ・拠点】 機能:他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場 拠点:情報を一度に知れる拠点 しくみ:障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p> <p>【資金・資源】 雇用:工賃の向上、安定した仕事がほしい。 雇用:施設での仕事の賃金が低いため、40~50代に就職希望者が出る。 資源:助成を受けてもらった車は目立ちすぎる、何をしても見られている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年5月1日(日) 11:00~11:40
実施団体	社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会
人数	18名(保護者会17名、施設長) 地域別:黒部市7名、入善町3名、魚津市5名、滑川市1名、朝日町1名 事業別:就労10名、デイ3名、愛本4名
聞き取り	(小倉)(濱松)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成11年 7月 小規模作業所くろべ工房を開設 平成13年 4月 生地鼻灯台旧官舎へ移転 平成14年 2月 NPO法人くろべ工房を認証 平成15年 3月 社会福祉法人くろべ福祉会を承認、小規模通所授産施設第1くろべ工房、小規模作業所第2くろべ工房を開設 平成17年11月 児童デイサービス藤の湯わんぱく工房を開設(定員10名) 平成18年 4月 重症心身障害児者通園事業あいあいを開始(定員5名) 児童デイサービスオープンスペースいろは舎を開設(定員10名) 平成24年 6月 相談支援事業所らいとはうすを開設 平成27年12月 あいもと里山工房を開設 ・3施設で利用者約70名、保護者会総会は年1回開催され、本日17名が参加。
ヒアリング内容 【現状と課題】	○現状把握 ・長男の結婚式の際、預かってもらう人を探すのに苦労した。 ○課題 ・いざという時に預かってもらえるところがない、人がいない。 ・地域とのつながりは、周りに高齢者しかいないため見えない。 ・障がい者を2人持っている、出かける時、自分に何かあった時にみてもらえる人がいない。 ・障がいの程度や内容は個々違うので幼少期から同じ人に関わってほしい。 ・今はいいが年をとった時に障がい児をみていくには不安 ・親がいなくなってから(死亡後)の本人のことが心配 ・魚津市には障がい者のサービスがいろいろある。黒部市にもデイ、グループホームなど市内での受け皿が欲しい。 ・障がいの重さに関わらず、声をかけてもらえる行事をして欲しい。 ・移動支援がない。 ・タクシーチケットの金額より手段が欲しい。 ・町内の防災訓練はあったが、障がい者の名簿(届け出したこと)とリンクしていないのでは? ・本人が65歳になった時、介護保険への移行となるため、利用できるサービスが減ってしまうのではないかと心配。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	・障がい者のためのダンス教室などの企画を社協でして欲しい。 ・拠点があっても移動手段がなくては行けない。 ・小さい頃からずっと関わってもらえるところ ・そこへ行けば介護の相談も併せてできるところ ・土日も行けるところ ・熊本のような地震があった時の対応
まとめ(ニーズ)	【人】 担い手:障がい者への関わりが個別に違うため個々の対応ができる人に来てほしい。 担い手:家族の急な用事の際など預かっていただける人が少ない。 【場・しくみ・拠点】 拠 点:バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。 しくみ:家族の老後に支援していただけるしくみと場があってほしい。 しくみ:利用者が高齢になっても利用できるサービスをつくってほしい。 【資金・資源】 活動資金:タクシーチケットの金額より手段が欲しい。

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会  
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年5月23日(月) 15:00~14:00
実施団体	生地蒲鉾有限会社 従業員(外国人)
人数	3名(社長、ベトナム人2名 27歳、25歳)
聞き取り	( 小倉 ) ( 宮崎 ) ( 中野靖 )
実施方法	聞き取り(生地蒲鉾中陳社長に補助通訳)
団体概要	昭和2年創業、昭和18年地元田中蒲鉾店と企業合同、現住所にて工場建設、生地共同蒲鉾製造所として発足。昭和44年社名を生地蒲鉾有限会社として法人登録。昭和58年10月優良施設として厚生大臣表彰。平成25年9月中陳新平が代表取締役就任、現在は従業員25名、アルバイト若干名、資本金1千万円、年商販売3億5百万円。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内12社の外国人雇用企業の1つで、労働者不足から近年外国人の雇用を行っている。現在、ベトナムと日本にそれぞれ組合があり、日本のベトナム組合の紹介で2名雇用している。「外国人技能実習制度」雇用研修制度にて最長3年雇用をしている。結婚や学生への留学の場合は日本滞在期間が延長されるが、それ以外は3年で帰国する。</li> <li>・H27年9月から黒部に来ている。他に名古屋に研修で1か月ほどいた。</li> <li>・一軒家に2名で生活している。</li> <li>・通勤は自転車で約5分かかる。</li> <li>・ボランティアに参加したい。</li> <li>・早く日本語を覚えたいので日本語教室にたくさん行きたい。</li> </ul> <p>○課題(日本に来て困っていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳の人がいない。</li> <li>・ベトナムの人と交流するところがない。</li> <li>・近所に高齢の人しかいない。</li> <li>・ベトナムの寺院が欲しい。</li> <li>・ベトナムの調味料を売っている店がない、どこに行けばよいか分からない。</li> <li>・バスの乗り方が分からない。</li> <li>・自転車での移動しかなく、冬は寒いので会社の人に連れて行ってもらったりしている。</li> <li>・地域の案内表示が漢字、英語、中国語で読めない、ひらがなやカタカナで表示してほしい。</li> <li>・病気の時、会社の人についてきてもらわなければならない。</li> <li>・外国籍の人が就労する仕組みが大変</li> <li>・品物の値段が高い。</li> </ul>
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ国籍の人や外国人と交流したい。</li> <li>・外国人のためにふりがなを標記してほしい。</li> <li>・空き時間を利用してボランティアやいろんな人と交流したい。</li> <li>・外国の食材など買える場所の情報を提供してほしい。</li> </ul>
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 担い手：通訳の人がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】 しくみ：同じ国籍の人や外国人と交流したい。 しくみ：ボランティアやいろんな人と交流したい。 機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。 機能：外国の食材など買える場所の情報を提供してほしい。</p>



## 課題別整理一覧

①【人】

②【場・しくみ・拠点】

③【資金・資源】

団体名	【人】についての課題
シェアフィールドひまわり	意識啓発：障がい者への理解（福祉教育）
黒部市民生委員児童委員協議会	担い手：支える人を育てる＝民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要 担い手：ボランティアの確保、育成 意識啓発：福祉教育、社会教育の推進＝民生委員の必要性、活動の理解 「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ
シニアサポーター（三日市保育所）	担い手：シニアサポーターをPRし、仲間を増やしていく。
三日市保育所・愛児保育園/職員	担い手：支える人を育てる、保育士として資格を持っている人材を集める。 担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成 意識啓発：福祉教育の推進＝「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ
黒部市身体障害者協会	担い手：役員を引き受ける人がいない、会員減少 意識：障がい者への理解 意識：障がい者の意識（関わってほしくない人もいる） 意識の高い人とそうでない人の格差がある。
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	担い手：専門性の担保 担い手：コーディネーターの確保、育成 意識啓発：認知症、障がいの理解（福祉教育）
黒部市ボランティア部会協議会	担い手：同じメンバーで活動している。 担い手：担い手不足 地域格差：地区のリーダーによって格差がある。
黒部市老人クラブ連合会	担い手：会員を集める。（60代） 担い手：転入者の受け入れの対応 意識啓発：老人クラブの魅力をアピールする。
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	担い手：ケアマネジャーの相談役（メンタルヘルスの支援） 意識啓発：民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解
市内ボランティア団体	担い手：リーダーの育成、人材の確保 意識啓発：コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進 意識啓発：ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入
地区社会福祉協議会/事務担当者	担い手：若い人がいない。男性がいない。
日本語教室in黒部	担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。 意識啓発：福祉教育＝多文化共生の理解
大布施地区（壮年世代）60代	担い手：地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。 担い手：民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。 意識：年代層が違ふとやりづらい、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。 意識：若い家庭は地域の行事に関心がない、近所づきあいがいい。
介護保険サービス利用者、家族	担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。
せせらぎハウス黒部	担い手：専門の資格を持つ人材の育成 担い手：障がい者を支援してもらえるボランティアの確保
社会福祉法人くるべ福祉会 保護者会	担い手：障がい者への関わりが個別に違ふため個々の対応ができる人に来てほしい。 担い手：家族の急な用事の際など預かっていただける人が少ない。
生地蒲鉾有限公司/従業員（外国人）	担い手：通訳の人がいない。

団体名	【場・しくみ・拠点】についての課題
シェアフィールドひまわり	<p>機能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場 中間支援としての相談場所</p> <p>拠点：障がい者の人々も集う場 いろいろな人たちとの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p>
黒部市民生委員児童委員協議会	<p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって（利用者：支援者＝5：5） たらいまわしを無くす、ここに聞けば分かる。</p> <p>機能：情報の交通整理と一元化 情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場 （民協、ケアマネ、NS、Dr、ワーカー、ボランティア、NPO等） 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担</p> <p>しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。 その上での役割分担を</p>
シニアサポーター（三日市保育所）	<p>拠点：誰でも気軽に行ける交流の場（子供、親、高齢者等） 相談、研修、子守り、ふれあいから出会いの場、発見の場 自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす。</p> <p>しくみ：自分達のできる活動を広げる。（花植え等）</p> <p>意識：自主的に行う活動も取り入れたりし、毎月参加できるよう健康に気をつける。</p>
三日市保育所・愛児保育園/職員	<p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場（働き手を支える）</p> <p>機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場（相談機能の充実）</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化 地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p>
黒部市身体障害者協会	<p>しくみ：個人情報（対象者）の把握</p> <p>機能：障がい者のリフレッシュできる場</p> <p>組織：組織運営していくしくみ</p> <p>拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場</p> <p>拠点：情報の拠点、やり取りできる場</p>
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	<p>機能：ここに聞けば分かる相談窓口一本化、たらいまわしにしない。</p> <p>機能：地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：いろんな団体の事務局が一か所に</p> <p>拠点：行政職員、専門職が集まれる場所（顔合わせ）</p>
黒部市ボランティア部会協議会	<p>しくみ：活動時間の確保が困難（平日が多い）</p> <p>拠点：活動者同士の気軽に集まる場がない。（相談、研修）</p> <p>機能：情報発信手段の不足</p>
黒部市老人クラブ連合会	<p>機能：老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。</p> <p>機能：老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ</p> <p>拠点：高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。 （椅子やテーブルがある今ばやりの部屋、エレベーター等）</p> <p>拠点：老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が 必要である。</p> <p>拠点：大布施と浦山の上に1拠点を作る。</p>

団体名	【場・しくみ・拠点】についての課題
市内ボランティア団体	<p>拠点：気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場 時間やお金を気にせず会話や集まりができる場</p> <p>しくみ：プラットフォームとして情報の発信や収集ができる場 活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用 専門分野のスキルを伸ばしたい。 企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p>
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	<p>機能：多職種との連携 社協とケアマネとの連携、医療（医師）との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：行きやすい相談場所 同職種の集う場所、一カ所での相談場所（障がい、行政職も待機している場所） 多職種が気軽に集える場所（民生委員も）</p>
地区社会福祉協議会/事務担当者	<p>機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。 機能：土日祝日、夜間も利用できる場所</p> <p>拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も 拠点：研修できる場や情報交換できる場</p>
日本語教室in黒部	<p>機能：相談窓口を明確に（ローマ字も）、ここに行けば聞ける場 機能：転入の際の情報の伝達をきちんと、しっかりと</p> <p>拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場（多文化、多国籍の人の集う場） しくみ：地域で受ける、顔のみえる。</p>
大布施地区（壮年世代）60代	<p>しくみ：グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。 しくみ：守秘義務で情報が得られない、見守りができない。 機能：いろんな問題の相談窓口がわからない。</p>
介護保険サービス利用者、家族	<p>拠点：的確に相談できる窓口を紹介してもらえる場 拠点：地域の人にわかりやすい拠点</p> <p>しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場 しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。 しくみ：交流できなくなった人との交流できる仕組みが欲しい。</p>
せせらぎハウス黒部	<p>機能：他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場 拠点：情報を一度に知れる拠点</p> <p>しくみ：障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p>
社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会	<p>拠点：バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。 しくみ：家族の老後に支援していただけるしくみと場があってほしい。 しくみ：利用者が高齢になっても利用できるサービスをつくってほしい。</p>
生地蒲鋒有限公司/従業員（外国人）	<p>しくみ：同じ国籍の人や外国人などと交流したい。 しくみ：ボランティアやいろんな人と交流したい。 機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。 機能：外国の食材などが買える場所の情報を提供してほしい。</p>

団体名	【資金・資源】についての課題
シェアフィールドひまわり	雇用：障がい者の働く場、雇用の開拓 活動資金：自主製品や事業収入の確保
黒部市民生委員児童委員協議会	運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。 活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。
シニアサポーター（三日市保育所）	活動意識：お金に関係なくできる活動である。 意識：お金で買えないもの、変えられないもの。 意識：参加することで得るものは財産である。
三日市保育所・愛児保育園/職員	運営経費：黒部市の補助金（子育て支援）が近隣の市町村より少ない。 利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。（一日あたり2,500円）
黒部市身体障害者協会	活動資金：市からの協会への補助がなくなってきている。
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	資金：拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。
黒部市ボランティア部会協議会	事務経費：事務の経費を負担している。（地区社協で格差あり） 活動財源：振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。
黒部市老人クラブ連合会	運営経費：老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事があるときは実費。
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	
地区社会福祉協議会/事務担当者	活動資金：財源の確保
市内ボランティア団体	運営資金：自主財源の確保 活動資金：資金を集める方法 活動資金：民間助成金や寄付金の活用
日本語教室in黒部	活動資金：備品や活動のための資金 活動資金：負担なく助成を受けられる資金
大布施地区（壮年世代）60代	
介護保険サービス利用者、家族	運営資金：福祉のお金がどう使われているかわからない。
せせらぎハウス黒部	雇用：工賃の向上、安定した仕事がほしい。 雇用：施設での仕事の賃金が低いいため、40～50代に就職希望者が出る。 資源：助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、何をしても見られている。
社会福祉法人くるべ福祉会 保護者会	活動資金：タクシーチケットの金額より手段がほしい。
生地蒲鉾有限公司/従業員（外国人）	

## 団体別課題整理一覧

シニアフィールドひまわり	黒部市民生委員児童委員協議会	シニアサポーター（三日市保育所）	三日市保育所・愛児保育園/職員	黒部市身体障害者協会
<p>意識啓発：障がい者への理解（福祉教育）</p> <p>機能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場、中間支援としての相談場所</p> <p>拠点：障がい者の人々も集う場 いろいろなる人々たちとの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p>	<p>担い手：支える人を育てる=民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要</p> <p>担い手：ボランティアの確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育、社会教育の推進=民生委員の必要性、活動の理解 「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって（利用者：支援者=5：5）たらい回しを無くす、ここに聞けば分かる。</p> <p>機能：情報の交通整理と一元化、情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場、拠点（民協、ケアマネ、NS、Dr、ワーカー、ボランティア、NPO等）</p> <p>研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担</p> <p>しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。その上での役割分担を</p>	<p>担い手：シニアサポーターをPRし、仲間を増やしていく。</p> <p>拠点：誰でも気軽にに行ける交流の場（子供、親、高齢者等）</p> <p>相談、研修、子守り、ふれあいから出合いの場・発見の場 自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす</p> <p>しくみ：自分達のできる活動を広げる。（花植え等）</p> <p>意識：自主的に行う活動も取り入れ、毎月参加できるように健康に気をつける。</p>	<p>担い手：支える人を育てる。保育士として資格を持っている人材を集める。</p> <p>担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育の推進「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場（動きを支える）</p> <p>機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場（相談機能の充実）</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化、地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p>	<p>担い手：役員を引き受ける人がいない。会員減少</p> <p>意識：障がい者への理解</p> <p>意識：障がい者の意識（関わってほしい人もいる。）</p> <p>意識：意識の高い人とそうでない人の差がある。</p> <p>しくみ：個人情報（対象者）の把握</p> <p>機能：障がい者のリフレッシュできる場</p> <p>組織：組織運営していくしくみ</p> <p>拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場</p> <p>拠点：情報の拠点、やり取りできる場</p> <p>機能：災害時の対応についての機能の設備、要支援者の把握</p>
<p>雇用：障がい者の働く場、雇用の開拓</p> <p>活動資金：自主製品や事業収入の確保</p>	<p>運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。</p> <p>活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。</p>	<p>活動意識：お金に関係なくできる活動である。</p> <p>意識：お金で買えないもの、変えられないもの</p> <p>意識：参加することで得るものは財産である。</p>	<p>運営経費：黒部市の補助金（子育て支援）が近隣の市町村より少ない。</p> <p>利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。（一日あたり2,500円）</p>	<p>活動資金：市からの協会への補助がなくなってきた。</p>

	黒部市職員	黒部市ボランティア部会協議会	黒部市老人クラブ連合会	市内ボランティア団体	居宅介護支援事業所/ケアマネジャー
〔人〕	<p>担い手：専門性の担保</p> <p>担い手：コーディネーターの確保、育成</p> <p>意識啓発：認知症、障がいの理解（福祉教育）</p>	<p>担い手：同じメンバーで活動している。</p> <p>担い手：担い手不足</p> <p>地域格差：地区のリーダーによって格差がある。</p>	<p>担い手：会員を集める。（60代）</p> <p>担い手：転入者の受け入れの対応</p> <p>意識啓発：老人クラブの魅力をアピールする。</p>	<p>担い手：リーダーの育成、人材の確保</p> <p>意識啓発：コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進</p> <p>意識啓発：ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入</p>	<p>担い手：ケアマネジャーの相談役（メンタルヘルスの支援）</p> <p>意識啓発：民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解</p>
〔場・しくみ・拠点〕	<p>機能：ここに聞けば分かる相談窓口の一本化、たらいまわしにしない。</p> <p>機能：地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：いろんな団体の事務局が1か所に</p> <p>拠点：行政職員、専門職が集まれる場所（顔合わせ）</p>	<p>しくみ：活動時間の確保が困難（平日が多い）</p> <p>拠点：活動者同士の気軽に集まる場がない。（相談、研修）</p> <p>機能：情報発信手段の不足</p>	<p>機能：老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。</p> <p>機能：老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ</p> <p>拠点：高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。（椅子やテーブルがある）</p> <p>今ばやりの部屋、エレベーター等）</p> <p>拠点：老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が必要である。</p> <p>拠点：大布施と浦山の間に1拠点を作る。</p>	<p>拠点：気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場</p> <p>しくみ：プラットフォームとして情報の発信や収集ができる場</p> <p>しくみ：活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用</p> <p>しくみ：専門分野のスキルを伸ばしたい。</p> <p>しくみ：企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p>	<p>機能：多職種との連携</p> <p>社協、ケアマネとの連携、医療（医師）との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：行きやすい相談場所</p> <p>同職種の集う場所、1か所での相談場所（障がい、行政職も待機している場所）、多職種が気軽に集える場所（民生委員も）</p>
〔資金・資源〕	<p>資金：拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。</p>	<p>事務経費：事務の経費を負担している。（地区社協で格差あり）</p> <p>活動財源：振興会の行事に協力することとで予算づけしてもらっている。</p>	<p>運営経費：老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事があるときは実費。</p>	<p>運営資金：自主財源の確保</p> <p>活動資金：資金を集める方法</p> <p>活動資金：民間助成金や寄付金の活用</p>	



地区社会福祉協議会/事務担当者	日本語教室in黒部	大布施 (壮年世代) 60代	介護保険サービス利用者、家族	せせらぎハウス黒部
<p>担い手：若い人がいない。 男性が少ない。</p> <p>〔人〕</p>	<p>担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。</p> <p>意識啓発：福祉教育＝多文化共生の理解</p>	<p>担い手：地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。</p> <p>意識：年代層が違つとやりづらい、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。</p> <p>意識：若い家庭は地域の行事に関心がない、近所づきあいが少ない。</p>	<p>担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。</p>	<p>担い手：ボランティア精神があつて、専門の資格を持つ人材がほしい。</p> <p>担い手：障がい者を支援してもらえないボランティアが必要</p>
<p>機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。</p> <p>機能：土日祝日、夜間も利用できる</p> <p>〔場・しくみ・拠点〕</p> <p>拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も</p> <p>拠点：研修できる場や情報交換できる場</p>	<p>機能：相談窓口を明確に（ローマ字も）ここに行けば聞ける。</p> <p>機能：転入の際の情報伝達をきちんと、しっかりと</p> <p>拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場（多文化、多国籍の人の集う場）</p> <p>しくみ：地域で受ける、顔がみえる。</p>	<p>しくみ：グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。</p> <p>しくみ：守秘義務で、情報が得られない、知らないと見守りができない。</p> <p>機能：いろんな問題の相談窓口がわからない。</p>	<p>拠点：的確に相談できる窓口を紹介してもらえたい。</p> <p>拠点：地域の人にわかりやすい拠点</p> <p>しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場</p> <p>しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。</p> <p>しくみ：交流できなくなった人との交流できる仕組みが欲しい。</p>	<p>機能：他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場</p> <p>拠点：情報を一度に知れる拠点</p> <p>しくみ：障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p>
<p>活動資金：財源の確保</p> <p>〔資金・資源〕</p>	<p>活動資金：備品や活動のための資金</p> <p>活動資金：負担なく助成を受けられる資金</p>	<p>運営資金：福祉のお金がどう使われているかわからない。</p>	<p>工賃の向上、安定した仕事してほしい。</p> <p>雇用：施設での仕事の賃金が低いいため40～50代に就職希望者が出る。</p> <p>資源：助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、何をしても見られていない。</p>	

	社会福祉法人くろべ福祉社会 保護者会	生地蒲鉾有限公司社/従業員 (外国人)			
〔人〕	<p>担い手：障がいの関わりが個別に違うため個々の対応ができる人がいてほしい。</p> <p>担い手：家族の急な用事の際など預かっていただけける人が少ない。</p>	<p>担い手：通訳の人がいない。</p>			
〔場・しくみ・拠点〕	<p>機能：バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。</p> <p>拠点：家族の老後に支援していただけるしくみと場があってほしい。</p> <p>しくみ：利用者が高齢になっても利用できるサービスをつかってほしい。</p>	<p>しくみ：同じ国籍の人や外国人などと交流したい。</p> <p>しくみ：ボランティアやいろんな人と交流したい。</p> <p>機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。</p> <p>機能：外国の食材などが買える場所の情報を提供してほしい。</p>			
〔資金・資源〕	<p>活動資金：タクシージャケットの金額より手段がほしい。</p>				

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」  
についての福祉関係団体の現状と課題調査

団体ヒアリング調査報告書

発 行 平成 28 年 8 月

編集・発行 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp